

# ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより

いちばん住みたい国 ～小林 盛人（高森出身）～

日本人と云えば誠実、正真、勤勉、礼儀正しいといったイメージが日本を訪れた外国人の一般的な感想だそうです。

特に世界中を驚かせたのは、2011年3月11日に起きた東日本大震災の際、日本人が平静を保っていたこと。当時の海外報道によると、「なぜ日本では災害につきものの略奪が起らないのか。(米CNN)」、「他の国ではこれほどの正しい行動はとれなかった。(英BBC)」、「商店の襲撃や救援物資の奪い合いが見られず市民が苦境に耐えていたことに感嘆。(米ニューヨークタイムズ)」など日本人の忍耐強さに賛辞を伝えていた。

こうした日本人の性格は、いつの頃から生れたのか、黄文雄著「日本人はなぜ世界から尊敬され続けるのか」から引用すると、「古代から近世にかけて来日した外国人が称賛するのは日本人個々の偉人、英雄ではなく、貧しく無知のはずの一般庶民にわたるまで高貴で素養が厚く親切である。」と述べている。冒頭の言葉は海外メディアの調査アンケートでも日本は常に「いちばん住みたい国」と評価されており改めて実感させられるのです。

日本の自然、風土が日本人の国民性を育てていると云われます。環境に恵まれた富士見高原は「日本でいちばん住みたい町」であるよう益々の発展を祈願するものです。



## 姉妹町 西伊豆だより

### 西伊豆町合併10周年記念式典

平成17年4月に、旧西伊豆町と旧賀茂村が合併してから10周年を迎えました。4月19日(日)には合併記念式典を開催し、富士見町からは名取副町長にご出席いただきました。

式典には、静岡県副知事や地元選出の県議会議員などにご出席いただき町の節目を祝いました。また名取富士見町副町長にもご祝辞をいただきました。



▲名取副町長から祝辞をいただきました

式典の後には、以前より交流のあった山梨県市川三郷町との姉妹町協定や東京都多摩市との災害協定を締結し、両市町長出席のもと調印式を行ったほか、伝統芸能の披露や今回制定された「町民憲章」を町内の小学6年生が読み上げるなど式典に花を添えました。

富士見町の皆さん、これからも西伊豆町をよろしく願っています。



▲小学生による町民憲章の披露

## 富士見町60年のあゆみ

昭和30年代（1959年～）

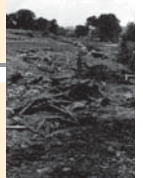
### ◎ 昭和34年（1959年）

- 3・16 諏訪バス境線開通
- 4・1 南中学校新築校舎へ移転
- 4・30 町長、町議会議員選挙 町長五味仙之助当選
- 8・14 台風7号襲来被害続出 災害救助法適用
- 12・15 高原中学校新校舎増築落成



### ◎ 昭和35年（1960年）

- 3・27 国有林（内山地籍 1,286ha）払下げ決定
- 7・14 高原中学校校舎復旧完成
- 7・15 南中学校新築落成
- 10・17 西久保保育所開設



### ◎ 昭和36年（1961年）

- 4・1 境保育所開設
- 6・26 梅雨前線豪雨 釜無川、立場川荒らされる
- 8・1 畜産主産地形成事業の指定を受ける

### ◎ 昭和37年（1962年）

- 6・1 落合保育所開設
- 10・1 有線放送全町通話開始
- 12・27 上水道経営認可 工事着手



## 富士見町民憲章

わたくしたちは、秀麗富士を望み、雄大な八ヶ岳と眺望豊かな入笠山にいだかれた高原の町、富士見町民です。この限りなく美しく、厳しい自然の中に住むわたくしたちは先人の心を受けつぎ、自然を愛し、豊かな調和のとれた田園の町の発展をめざして、この町民憲章をかかげます。

- 一 かけがえのない自然を守り、育てていく町民となろう。 一 心身を鍛え、明るく健康な町民となろう。
- 一 教養を高め、香り高い文化を創造する町民となろう。 一 仕事に誇りを持ち、産業の発展につくす町民となろう。
- 一 思いやりの輪をひろげ、住みよい郷土をつくる町民となろう。